

NO. 324

# じゅんあい

平成26（2014）年3月1日

## 土台石



ヨハネ黙示録21章に記されている 宝石

私がまだ20代の半ば頃、北海道札幌市に開拓伝道を命じられ、<sup>さっぽろ</sup> 単身任地へ赴いた。そして、100坪近い土地が市の北部に与えられ、クリスマスに間に合うように牧師館を建てる運びとなった。資金を安く上げるため、協力者の水口さんと共に毎日のように土を均したり、基礎工事に<sup>な</sup>関わって<sup>つかいし</sup> 塚石を並べたり・・・と汗だくになっての建設が開始された。

そして30万円で12坪の牧師館がクリスマスに間に合うように完成し、忘れられないクリスマス会を開くこととなった。その建物を<sup>ささ</sup>支えたのは塚石であった。

自分が子供の頃は一般の家の建築にもよく塚石が用いられ、案外と長持ちして空気の通りもよく木造建築には合うようである。

『イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを<sup>なにもの</sup>何者だと言うのか。」

シモン・ペテロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したの<sup>あらわ</sup>は、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵<sup>かぎ</sup>を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。』

(新約聖書 マタイ 16章)

ペテロの信仰告白こそ、教会を支える岩であったといえよう。砂の上ではなく、しっかりしたペテロの信仰の岩の上に教会が建てられてゆく・・・ペテロはローマのために殉教<sup>じゆんきやう</sup>していった。そして、その跡地に今日知られている聖ペテロ大寺院が建てられ、ローマ法王が祈り、かつ全世界に向けた平和のメッセージを語る建物となったのであった。

岩・・・キリストへの信仰という揺るがざる岩。又、キリストは岩なるキリストとも言われ、キリストこそ、我らを支える岩なのである。

『兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選びました。また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。』

(新約聖書 第一コリント 1章)

まさしくキリストは岩であり、智恵であり、義であり、聖、贖、一切の一切なのである。

『すると、玉座に座っておられる方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。また、わたしに言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。渴いている者には、命の水の泉から飲ませよう。勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐ。わたしはその者の神になり、その者はわたしの子となる。』

(新約聖書 黙示録 21章)

【さて、最後の七つの災いの満ちた七つの鉢を持つ七人の天使がいたが、その中の一人が来て、わたしに語りかけてこう言った。「ここへ来なさい。小羊の妻である花嫁を見せてあげよう。」この天使が、“霊”に満たされたわたしを大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のもとを離れて、天から下って来るのを見せた。都は神の栄光に輝いていた。その輝きは、最高の宝石のようであり、透き通った碧玉のようであった。都には、高い大きな城壁と十二の門があり、それらの門には十二人の天使がいて、名が刻みつけてあった。イスラエルの子らの十二部族の名であった。東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。都の城壁には十二の土台があつて、それには小羊の十二使徒の十二の名が刻みつけてあった。

わたしに語りかけた天使は、都とその門と城壁とを測るために、金の物差しを持っていた。この都は四角い形で、長さと同幅であった。天使が物差しで都を測ると、一万二千スタディオンあつた。長さも幅も高さも同じである。また、城壁を測ると、百四十四ペキスであつた。これは人間の物差しによって測ったもので、天使が用いたものもこれである。都の城壁は碧玉で築かれ、都は透き通ったガラスのような純金であつた。都の城壁の土台石は、あらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七はかんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であつた。また、十二の門は十二の真珠であつて、どの門もそれぞれ一個の真珠でできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であつた。】

(黙示録 21章)

あゝ、何と驚嘆すべき予言であり黙示であることよ。

ヨハネはそれをパトモスという島で告げられ、見たものを聞いたものを細やかに綴っていった。それがヨハネの黙示録なのである。

“都は神の栄光に輝いていた。その輝きは最高の宝石のようであつた。”

そして、都の城壁の土台石は12種類の宝石であつた。

以前から「これらの宝石が与えられればよいのに・・・」と思い、話しはしていたが、この度、教会の一信徒の方の協力によって全部の宝石が与えられ、一つ一つを眺めては天の神殿、新しきエルサレムの美しさ、小羊の妻なる花嫁の神秘的な美を連想させられ、感嘆している次第である。

天上の事はもっと霊的であり、さらに神秘的であり、地上の物を持ってしては、はかり知る事は出来ないであろう。

主は滅ぶべき汚れし罪人を、キリストの花嫁と変え、御自身の美の衣を着せて  
黙示録のビジョンの実現へと造り変えて導きキリストとの同席を与えられる。  
ハレルヤ！！ 主を褒めたたえよ。

【わたしは、都の中に神殿を見なかった。全能者である神、主と小羊とが都の神  
殿だからである。この都には、それを照らす太陽も月も、必要でない。神の栄光  
が都を照らしており、小羊が都の明かりだからである。】 (黙示録 21章)

【見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報いを携えて来て、それぞれの行いに  
応じて報いる。わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、最後  
の者。初めであり、終わりである。

命の木に対する権利を与えられ、門を通過して都に入れるように、自分の衣を洗  
い清める者は幸いである。

わたし、イエスは使いを遣わし、諸教会のために以上のことをあなたがたに証し  
した。わたしは、ダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの明星である。

“霊”と花嫁とが言う。「来てください。」これを聞く者も言うがよい、「来てくだ  
さい」と。渇いている者は来るがよい。命の水が欲しい者は、価なしに飲むが  
よい。以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」ア  
ーメン、主イエスよ、来てください。】 (黙示録 22章)

恐れおののいて主の御前にひれ伏し、はかり知れない贖いの頂点へと導かれる  
御主 主イエスに心より感謝し、ひたすら愛の御名をほめたたえよう。

そのための洗足であり、教会の清めであった。

【キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なる  
ものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、  
栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。】

(新約聖書 エフェソ 5章)

#### 《表紙の写真について》

3ページに記されているヨハネ黙示録の12の宝石です。

左上(碧玉)から時計回りに配置されています。

殉愛キリスト教会

牧師：山縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/>